

観自在

弘長寺寺報
第四十号
令和二年一
月(年二回
発行)

(ノーベル賞クラスの) 大発見 (奇跡の時間)

あけましておめでとーございませす
弘長寺住職 森田裕光

実は東日本大震災発生時に発見して、その年の寺報に載せたのですが、何の反応もありませんでした。十年経た現在、未だに反応がないので再度発表してみます。(但し日米のみの大災害のみ、2004年スマトラ大震災は除きます。)

★災害を時間や数字でもてあそんでいると思われる心配があり長い間伏せていたが、10年を経たので解禁します

あなたはご存知だろうか？

(阪神・淡路大震災)と(アメリカインタワータテロ)と(東日本大震災)の奇跡の時間を。

驚くなかれ、3件の発生時間が、全て46分なのだ。

●旧くは阪神・淡路大震災 ← 1995年(平成7年) 1月17日 午前5時46分。

●次はアメリカインタワータテロ ← 2001年(平成13年) 9月11日 現地時間 8時46分。 ※同時テロ独立調査委員会発表時間(日本時間も46分)

●その次は東日本大震災 ← 2011年(平成23年) 3月11日午後 2時46分。

こんな偶然があり得るだろうか？

私はこの46分を奇跡(鬼門)の時間だと思っている。

さらにこの3件には驚くべき事象があり、詳しく載せています ←七ページへ



令和元年 護持会研修 高野山拝登(三七名)

弘長寺護持会研修 高野山金剛嶽寺 令和元年11月7日

「命の歌」

弘長寺護持会会長

武田民三

明けまして、おめでとうございます。

護持会の皆さまには、素晴らしい新年をお迎えのこと、心からお喜び申し上げます。

令和初めての正月、弘暁三ヶ日に斉行された大般若転読祈祷会は、暖かく穏やかでありました。

然し、暖冬は日本列島近海の海水温上昇により列島近海での台風発生が心配ではあります。

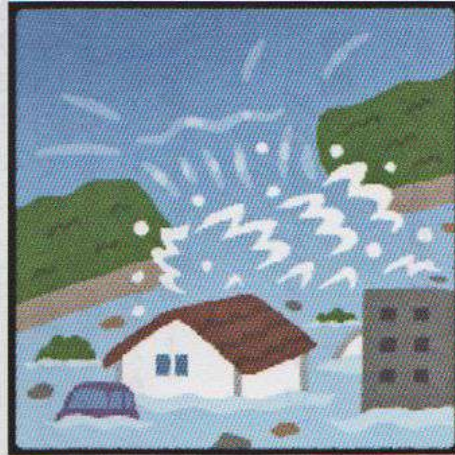
世界の科学者は、破局的影響を警告して「気候の緊急事態」

宣言を、生態学専門誌に発表し

「気候変動は多くの科学者の予想を超えるペースで進んでおり、地球の気候は、観測史上例がない

い気象災害を見ても、緊急事態である」と指摘しています。

「日本の政治家や企業、一般市民、研究者、メディアには危機感がなさ過ぎる」とも訴えています。



ところで、歌唱の効果を医学が実証して久しいのですが、歌うことは、スポーツのように急激な負担をかけないで「気軽に」

「楽しく」健康増進を図ることができるレジャーの一つでもあるとして、近年の研究によって免疫力の低下や生活習慣病の原因となるストレスを軽減させる

効果も実証されていると

さて、皆さまは「竹内まりや」という歌手（アーティスト）をご存じでしょうか。

竹内まりや（シンガーソングライター）は出雲大社の神門通りにある「竹野屋旅館」（ラフカディオオハーン・小泉八雲ゆかりの宿）に産まれたひとであり、ホテルの館内には、まりやさんの展示コーナーもあります。

お父さんは、元大社町の町長を永らくお勤めになった人であり、ご存知のお方も多いのではないかと思います。

私も曾て、ご縁を頂き親しくご交誼を賜りました。

彼女には膨大な作品がありますが、その中に、特に人々の心に響く名曲、「いのちの歌」があります。

この作品は、かつてNHKの朝ドラ「だんだん」（出雲地方を背景に双子のスターである「茉奈・佳奈」まな・かなの二人が主演）に発表の劇中歌ですが、その歌詞が実に素晴らしいので、紹介いたします。



「いのちの歌」

(作詞) Miyabi (竹内まりや)

(作曲) 村松崇継

いきてゆくことの意味 問いかけるそのたびに
胸をよぎる 愛しい人々のあたたかさ

この星の片隅で めぐり会えた奇跡は

どんな宝石よりも たいせつな宝物

泣きたい日もある 絶望に嘆く日も

そんな時そばにいて 寄り添うあなたの影

二人で歌えば 懐かしくよみがえる

ふるさとの夕焼けの 優しいあのぬくもり

本当にだいじなものは 隠れて見えない

ささやかすぎる日々の中に かけがえのない喜びがある

いつかは誰でも この星にさよならを

する時が来るけれど 命は継がれてゆく

生まれてきたこと 育ててもらえたこと

出会ったこと 笑ったこと

そのすべてにありがとう

この命にありがとう

世の人々に、生きることの意義、生命（いのち）の本質を教えている。

歌を介して両親、兄弟姉妹……そして今はいなくなつた命に（祖先に）感謝の心を持つこと。

人は皆んな一つの生命であることを伝えたいとの願いにあふれています。

出会った人々を大切に思い、自分の人生をも大切に生きることに。

そこから感謝の心が生まれるのです。

歌には兎角、悲恋とか、嫉妬とか、不倫とか、あまり健全な言葉が少ないのでありますが。

竹内まりやさんの此の歌を、昨年の暮れにNHKは特番を組んで放送しました。

さらに紅白歌合戦にも出場し、この素晴らしい言葉にあふれる曲を歌い上げています。

いまの厳しい世を、この歌が訴えている。心をふるわせる「大切な思い」に生きてまいりたいものと痛感する次第です。



人間が地上に生まれて来たのは、或る条件のもとにその条件に適合しながら、困難を克服する努力を続けることによって、愛行や利他行をしたり、自分の品性、品格を陶冶しながら、自分の能力を開発し精心（魂）を向上すべく努力を重ねて行くことにあると思ってい

ます。

これに反して、努力もなく、愛行や利他的な行ないもなく、ただ自分の利己的満足を得んとして「労せず」に多くの効果を求める」ために、心を労するのであれば、凡そ宗教的では無く、魔術的になってしまいい、それは正しい祈りとは言えないでしょう。

どうか、弘長寺護持会がいよいよ正しい発展を遂げ「祖先を大切にする教え」を立派に子孫に伝えてまいりたいと思う次第であります。

護持会の皆さまのさらなるご理解、ご協力を賜りますことを切にお願い申し上げます。

ありがとうございます。

合掌

高齢化社会を生きる

弘長寺護持会副会長

内田 松寿

あけましておめでとうございます。

昨年も地球温暖化のためなのか、各地で度重なる豪雨や台風による風水害に見舞われました。

大自然の下では人間など蟻のように無力なものだと、胸が痛みます。

ここ十年来、歳をとつたらキョウヨウとキョウイクが大それたと言われて来ました。

「今日、は用がある、今日は行くところがある」ということです。

何も用がない、どこにも行くところがないと言つて家でゴロゴロしてはボケて来ます。

合掌

二〇一八年夏、山口県で行方不明になっていた男児を保護した高齢ボランティアの尾畠春夫さんもそれをモットーにしておられるといひます。

用事も、行くところも誰かが与えてくれるのを受け身で

待つのではなく、自分で能動的に見つけ取り組むべきものです。

待遇のいい仕事をやりたい若い人はたくさんいます。

やりたい人が少ないから高齢者が頼まれる仕事もあります。

そんな頼まれ仕事でも「あるだけありがたい」と感謝したいものです。



かけた恩は
水に流せ
受けた恩は
石に刻め

スーパーボランティア
尾畠 春夫さん

定年退職後に始めたもの一つにゲートボールがあります。

平成二十四年には宍道町に

十チームあったものが現在で

は七チームにまで減少して

ます。

私のチームは毎週木曜日に

練習してはいますが、高齢になり辞める人はいても若い人がなかなか入ってくれません。

地区の高齢者クラブの活動についても同様です。

入会するとすぐ役員等が回ってきてゆつくりできないという事情もあります。

上位(県)大会に出るためには、上級の審判員がいないと出場できません。

そういうこともあつて昨年十月飯南町琴引ビレッジ山荘を会場として開催された一泊二日の上級審判資格試験講習を受講しました。(宍道町から4人)

本田恭一県協会理事長等の熱心な指導と必死の一夜漬け勉強のかいあつて、後日合格通知を手にする事ができました。

今年も適度な運動により体力維持に努め、護持会や地域

社会での活動に気を張って頑

張ろうと思つています。

よろしくお願い申し上げます。

合掌

新年と災害とネットと

弘長寺護持会副会長

内田磯弘

新年おめでとございます。

新春を晴々れしい気持ちでお迎えのこととお慶び申し上げます。

去年を振り返りますと新天皇が即位され、元号が「令和」に改められて祝福された一方で、台風十五号の千葉県を中心とした風災害や台風十九号の広範囲にわたる雨災害など、多数の自然災害が起きました。一日も早い復興と今年一年災害のない穏やかな年となることをお祈り申し上げます。



この冬も積雪がありません。雪災害となれば大変でしょうが、去年に続き積雪がなければ田んぼや畑仕事をする時期になると水の心配をするこゝとになりはしないか、気にかかるところです。

一月十四日付、夜の朝日新聞デジタルに「NHKのネット常時同時配信、今春開始へ総務省が認可」とありました。

今やネット全盛の時代。

テレビもアンテナやケーブル接続ではなくネット配信でNHKだけはチューナーがなくて視聴できるということなのでしよう。

このネット配信は災害時に利点が多く発揮出来ると思われれます。

一時的に停電が起きた場合、テレビはつかず。

目からの情報が得られない時、スマートフォンから視聴できるネット配信はとても役にたつでしょう。

情報を得るといふ点でラジ

オがあります。

ラジオはというと、かれこれ十年前からAM・FMなどのラジオ放送を同時ネット配信しています。

代表的なのがRadiko(ラジコ)。

少々お金がかかりますが、プレミアム登録をしておく日本全国のラジオが聞き放題。



災害時以外にも好きな番組やお気に入りのパーソナリティをみつけてラジオを楽しむのもいいかもしれません。

環境が大きく変化している昨今、健康にお気をつけてお過ごしください。

健康であることが一番の幸せです。

皆様のご健康をお祈りいたしております。

三朝祈願御札

弘長寺副住職

森田大裕

明けましておめでとございます。

本年も一日から三日間の大般若祈禱にて祈願致しました「立春大吉」と「鎮防火燭」の二枚のお札を皆さまのお宅へお配り致しました。

以前にも説明したことがあると師匠は仰られますが、皆さまのお宅へ何うと「それでこのお札さんはどうしたらいいもんですかね？」と尋ねられることが増えてまいりましたので、改めてお札についてご説明致します。

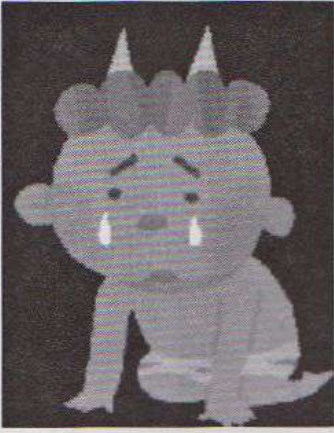
現在立春は二月四日ですが、旧暦では十二月後半から一月前半に当たります。

新年の始まりであった立春に、一年間の幸せを願う言葉であります。

ちなみに一説には、立春大吉という言葉の縁起は曹洞宗の開祖道元禅師様のお正月に記された「立春大吉文」という法語が元になっているといわれています。

この「立春大吉」という字は全て左右対称になっています。

表から見ても裏から見ても、「立春大吉」と読めるのです。昔、鬼がこのお札のある家に悪さに入ろうと、門をくぐって後ろを振り返るとやっばり「立春大吉」と書いてあるので勘違いして門をくぐって外へ帰ってしまったというお話もあります。



そうして招福祈願と共に邪気を払う縁起の良い言葉として正月に貼り付けるようになったのです。

「鎮防火燭」は火伏のお札で、これも火災などの厄災を除くものとして、一緒に貼って頂きます。

「立春大吉」のお札は玄関の外に向かって右側に、「鎮防火燭」のお札は左側に貼ってください。

押しピンなどは使用しないで、両面テープかのりでお貼りください。

「鎮防火燭」は火を扱う場所、直接台所に貼っていただいても結構です。

お仏壇にお供えしてあったり、しまつてしまわれておられる方もおられますが、なるべく玄関へ貼って頂き、この一年の幸福をご祈念下さいますようお願い致します。

一年間貼り終えたら、一月

のどんどさんで焼却処分して下さい。

弘長寺では四月の大般若にて古い御札を置く盆を用意しています。

祈禱が終わった時点で、旧大般若祈禱札と共に焼却してお炊き上げをいたします。

お知らせ

お願い

●盆棚経

昨年は来待大森地区まで終了致しました。

本年は横見地区から大野地区←和名佐←大谷←玉造←柳井←宍道←町外←弘長寺←鏡←浜と廻っていきます。

状況によって全部廻りきれない場合がございますのでご了承ください。

●三朝祈願の御札は正月三日

間、早朝三時朝課、五時から檀家様のお詣りと共に転読大般若にて祈りを込めて祈禱した有り難い御札です。ただの紙切れではござい

せん。丁寧にあつていただきたくと存じます。

●年始回りや盆棚経をお寺にお詣りいただいて一度に済ませるお寺さんが増えてまいりました。

それは誠に簡単で結構なのですが、やはり年によっては大雪の中、震えながら御年始で御札を配って歩くのも寒行でありますし、夏、炎天下を汗を拭きながら読経して廻るのもお坊さんとしての修行であると心得ています。

御札の価値や読経の価値が絶対に違はずです。

身体が動かなくなれば致し方ありませんが、続けられる限りは続けたいと思っています。

それが伝統を護るといふことであるし、お檀家様とのつながりを強くし、伝統を継続していくことなのだろうと考えています。

表紙の続き

そしてこの3件の時計時間軸も、分だけで無く時間の方も、3時間おきという一定の法則に則っているのだ。

私は2011年（平成23年）の寺報23号に載せたのだが何の反応もなかった。（今思えば、すこぶる解りづらい文章でした）

大災害に対して大変な思いをしておられる方が大勢いらっしやるのに、不謹慎にも言葉（数字）遊びをしているのでは？とキツく咎められる恐れがあったので、そのままにして大人しくしていたのだが、今考えてみてもまぎれもなく奇跡だと思え、正しく神の領域としか言いようのない事実でありますから、今となってはやはり皆さまに是非お伝えしたいと思えます。

※なおこの3件は、日米に限りますが、自然災害と人

的災害の2種類あります。いずれも世界的に衝撃を与え、死者約3,000人以上、負傷者約6,000人以上の大惨事にかぎっています。

● 阪神・淡路

← 死者 6,434人
負傷者 43,792人

● ツインタワー

← 死者 2,996人
負傷者約 6,000人

● 東日本

← 死者 15,895人
負傷者 6,157人

※このときは平成23年と寺報23号の数字もピタツと一致した。

※あな恐ろしやと表現した妻は、この東日本大震災の2年後、55歳（5がダブります）の若さで亡くなりました。

妻の誕生日は昭和33年1月11日生まれ。
（3がダブって1がトリプルです）

大惨事の不思議

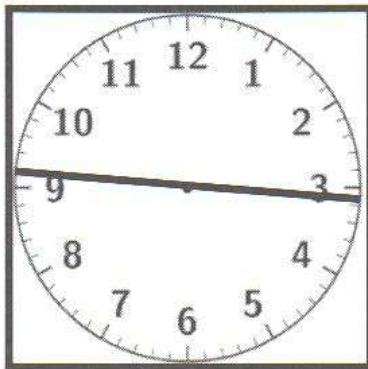
※東日本大震災は死者・行方不明者と関連死を合わせると、22,000人以上（2がダブっている）である、と先日再発表がありました。

● 日米三大惨事

★最初に東日本大震災とツインタワーテロを比較
☆日付を時間に置き換えて表せば（短針）

9・11と3・11
つまり9時11分と3時11分

両方の短針が一直線につながります

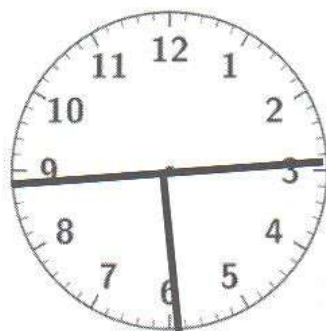


これだけでも不思議と思いませんか

☆次に、発生した「分」の時間です、8時46分（ツイン）、2時46分（東日本）で、どちらも46分です。
図は時計の短針で表しています。両方の短針が一直線につながります

正確に3時間おきです

☆これに（阪神の）5時46分の短針を加えるとこうなります



● 46分だけでなく正確に3時間おきになる。これは人智を超えた何者かの意志ではないだろうか。

住職は考える

住職

布教回顧雑感（布教師と
いう辞令を受けて35年）

●35才で僧侶となり、私の結婚式の仲人・戒師をしていただいた当時の宗務所長老師（故人）が私の御礼挨拶を聞かれて見初められ、「あなたは来年から布教師養成所に行きなさい」それが布教師になるきっかけであった。

仏教のぶの字も知らず右も左も解らなかつた私が、お山を下りた次の年から布教師という肩書きをいただき、他寺に出かけ法話をさせていただくようになった。

今思えば、よくもそんな大それた事をと、汗顔の至りであります。

布教師養成所計2年、梅花（御詠歌）養成所2年、梅花研修員2年、合わせて6年間、立て続けに本庁の研修道場で勉強させていただいた。

そこで幸せにも布教の基本を学ぶことができました。

30年以上布教師の資格をいただき、宗務所教化主事のお役につかせていただき、最後は中国管区教化センター布教師の肩書きがもらえたということは、当時の所長老師の眼力の凄さに驚くとともに（結婚式のたった1分くらいの挨拶だけで見抜く力は尋常ではありません）感謝の念でいっぱいです。

※すみません、私の大嫌いな自慢話と受け取られたならお恕しください。

●まず我々は基本的に「説教師や説法師」ではないと思います。

仏教の教えが独自に説けるような、そんな大それた存在ではないでしょう。

お釈迦様が説かれた法（真理の教え）をよく咀嚼して、お釈迦様の教えを人に伝える「伝法師、或いは伝教師」という意識を持つべきだと思います。

●どういふ話し方が相手の心に伝わる布教（法話）であり、相

手の懐に深く入っていけるのであろうか。

いろいろな方の布教を拝聴してきたのだが、私は悟りきつたように淡々とお話になる方よりも、間をとって強弱と緩急をうまく使い情熱的に話されるタイプが好きだし、自分自身もそういう話し方を心がけている。

もちろん受け止め方の好き嫌いはそれぞれであろうが、相手にしっかりと聞いていただき、相手の心に響かなければ何にもならないと思うのです。



確かに淡々と話されていても、

感動を受ける方が中にはいらつしやるのは事実ですが、（淡々と話されても間の取り方、話し方の抑揚がきちんと入っている方）、その淡々と話しをされる殆どの方は、子守歌法話でただ眠いだけです。（自慢ではないが、過去法話の最中何度寝て来

たことか）

次の展開はどうなるんだろうかというハラハラするような布教展開に出会うことは希であります。

そのためにはいろいろな方のお話を多く聞き、たくさんの本を読み、それだけではいけない……自分でこれとは思った箇所を抜き出し理解し、咀嚼して如何にして解りやすくお話につなげていくことが出来るかという事です。

最初にユーモア話を入れてこれが受けると、聴衆の懐にスムーズに入っていくものですが、受けないと悲惨で最期まで緊張が解けなくなります。

●私自身のことはこの際棚に上げさせていただき、ズバズバ言わせてもらえば、昨年の特派布教師もひどかった。（すみません、私は特派布教師は厳しくごんごん批判すべきだと思います）

お話が一番大切な「間」など皆無であり、「間」がないことを間抜けというのだが全くその通り、だからと止めどなくユーモアもなし、味気ない一本調子

で最後まで話された。
内容はそう悪くはないと
思うのだが、しかし特段素
晴らしいという程でもない。

20数年間特派をやつて
きたと言われたが、この稚
拙な話し方を指摘される方
は今までにいなかったのだ
ろうか。

将来布教師を目指す方は
このような話し方は絶対に
真似をしてはなりません。
これからの布教を目指す
方に申し上げておきましょう。

何故「間」が大事かを教
えてあげましょう。

一瞬の「間」で相手が頷
いてなるほどと肯定の意を
持つことができたり、その
瞬間で「さてよ」と思った
り、相手に考える時間を与
えることができるのです。
ほんの一瞬の間で相手が
イメージ的に考える時間を
与えるのです。

だって特派って禅師様の
代わりに全国を廻るのです
よ、もう少し自覚をもつべ
きですよ。

特派に至る検定の時、検
定委員から話し方について
おそらく指摘があったので
はないかと思うのですが、
爾来研鑽が足りなかったの
ではないかと思えます。指
摘がなければ検定委員も問
題あり。

特派布教師20数年の方
に今更指摘しても、もう治
らないと思います。
自分ほど素晴らしい布教
師はないと思っておられる
でしょう。(裸の王様に近
いのかな)

本当は偉そうに他の布教
師の批判などしたくはない
のですが、あまりにもガツ
カリしたものですから、こ
れからの世代の若手布教師
のために、敢えて悪者にな
りましょう。

●養成所では「宗乗とか宗
意が入っていない」とかよ
く指摘されたのだが、そも
そも宗意とは何か?

道元様がすべて正伝の仏
法と仰るからには、何を話
しても仏教であり、宗意で
ないものはないと思うのだ

が、そのことを質問しても
理解に苦しむ答えばかりで、
結局何のことか解らなかつ
た。

●「布教師の法話をカセツ
トテープに録音したい者は、
ちゃんとその布教師の許可
を取れ」と騒がれた布教師
さんがいたが、狭い料簡で
物事をよくよく解っていない
いお方だと思つた。



当時人権問題がきびしく
なり、著作権等もやかまし
くいわれるようになり、確
かにテープ録音も厳しく言
われた時代があった。

しかしそれは仏教世界の
話ではなく一般社会……世
間の話なのだ。

世間に迎合して自分よが
りで騒ぎ立てるような布教
師さんがなさる法話は、絶
対聞く必要がないとその時
思つた。

布教に対しそのように上
から目線でものを言う姿勢
からして、そのようなお方
の法話など拝聴する価値な
ど全くないと思つたのだが、
それは今でも遠からず当たつ
ているように思う。

私どもは中途半端ではあ
りますが出世間の僧侶であ
ります、いくら在家の方と
同じ生活をし、結婚もし、
子供も作るけれども、出家
者という誇りだけは忘れて
はいけないと思つたのです。

出家の布教師であるなら
ばこう思うべきです。

「拙いお話ですが、私のお
話でよければどうぞ録音し
て、二度でも三度でもお聞
きください、そして本日
来れなかった方にも後で聞
かせてあげてください。

もし疑問に思う言葉であつ
たり、それは違ふのではな

いかと思われ内容があつたならば、私に直接連絡して教えてください、勉強させていたください「こういう謙虚な気持ちでなければいけないと思うのですが。」

「お前ら、私の説教を聞きなければ心してきけよ、テープを録りたければきちんと私の許可を取れ」なんて一体何様のつもりなんでしょうか、人ごとながら恥ずかしくなったものです。

●以前来県された特派布教師の方が、当番寺である自坊においでになった。

近くの温泉旅館にご案内して、都合で一緒出来ません。が食事時にビールでもお酒でも自由に注文なさってください、とお願いをしておいたのだが、翌日の布教の中で「昨夜はサーブスが悪くてビールも飲めなかつた」とお話をされた。

どうぞご自由にと申し上げたはずなのに何てことを仰るのか、と憤慨して聞いていたら、下ネタを最初に

仰ったので、こんな方が特派であつてはいけないと思ひ、録音したテープをその方に送り、これを宗務庁に送り報告をするといつたら、さすがに真っ青になられたんでしよう。

平身低頭で謝罪された。

いや、これは人ごとではない。

かくいう私自身も似たような経験があります。

20数年前あるお寺で法話をしたら、どうも私が若僧のくせに生意気なことを申し上げたらしい。

風のうわさでそのことをお聞きした時は、余程前で話すときは注意をせねばならんと、自らの頭を叩きました。

●昨年2019年（平成31年・令和元年）広島県の寺院計4ヶ寺に法話に出かけた。

その中の1ヶ寺にマイク設備のない寺院があり、西脇間の端から東脇間に向け

て話し始めた。

後で気づいたが、東脇間の先に、おそらく昔は一文字造りで庫裏の役目も果たしていたであろう広い部屋が続いていた。

自分では結構大きな声で話しているつもりだったが、突然真ん中あたりにお座りの方が「聞こえませんが、もうちょっと大きな声でお願いします」と声を上げられた。

私はあらん限りの大声を出し、「これでお許しください、限界ですから」と申し上げ話したが、法話が終わった時はノドがカラカラで痛みを感じました。

この体験から、他寺で法話をするときには必ずポータブルの拡声器を持参したほうがよいと思う。

自分の声に自信があり、マイクなど不要と思われる方も、お年を召された方たちの中には、必ず耳の遠い方がいらつしやるし、補聴器をかけられていても調子が悪くて雑音だらけになってしまう方だつていらつ

しやるかもしれせん。またそのお寺のマイクが故障することも考えられます。

布教師はそこまで気を遣いあらゆる準備を怠つてはならないと感じました。

●お説教の初めにお唱えをする、長つたらしい説教法というものがあるけれども、まあ特派布教師なら許せるけれども、一般の布教師は開経偈だけ唱えれば十分で、基本的には全く要らないと思う、反論したい御仁はおられるだろうか。

それに時間を費やすのであれば、言い足りなかつたことにその時間分を費やした方が余程増しだと思ひます。

●最後にこれだけは相手に伝えずにおくものかという、凜とした覇気が全くないような気の抜けたダラダラ法話は聴聞に値しないと思ひています。

※案外自分のことは棚に上げ、言い過ぎた部分があるやもしれませんが、何卒お恕しを！

拝登 高野山 & 四天王寺

護持会研修旅行

写真集

四天王寺



加太温泉



武田会長の「二輪草」に合わせて、安養寺寺族さんの日本舞踊が披露され大喝采

宴会のはじまりです



拝登 高野山 & 四天王寺

護持会研修旅行

写真集

高野山

